

ふらっふ通信

第19号

社会福祉法人
なつな学園
サービスマスター
ふらっふ通信

コウノトリ

滝沢一人

新しい年度を迎え、相変わらずドタバタと毎日を過ごしております。新体制につきましては、職員の出産、人事異動等が重なり皆様にはご不安な思いや、不慣れな場面でご迷惑をおかけすることもあるかと思ひますが、開所時と変わらぬ思いだけは持続して、支援にあたらせて頂きたいと思ひます。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

先日某新聞の特集記事で「コウノトリを追って」という記事が目に残りました。出生前診断を通して数回にわたる連載は単純に割り切れないう、考えさせられる深い内容のものでした。最近立て続けに他紙でも出生前診断や母体保護法にまつわる記事が多く目につきます。同時期に他社の記事に“出生前診断十年前と比べ中絶倍増”というのを見かけました。若い職員の多い当法人内でも何

を隠そう出産ラッシュが続いており、その状況と相まって気になりました。“命に質を問うのか？”という問いに対して、何も宗教倫理の世界の話ではなく、普通に生きる各々生活者として明確な答えを持たなければならぬと思ひます。

私にも三人の子がおります。女房が身ごもったと聞いたとき、こみ上げてくる嬉しさの中、どうやって産まれてくる子を受け入れるかについて、二人で膝突き合わせて話し合つたのを昨日の事のように覚えています。また単純に、その話し合いが今も変わらず二人の合意としてあることをありがたいと感じています。

本来、疾病や障害の早期発見・早期治療を主目的として進められるべき胎児診断ですが、簡便なマス・スクリーニング検査が障害胎児を見つけ出し、一網打尽にするために使われるのであれば、我々は声を大きく発信していかねばと思ひます。これはナチスドイツの優生思想のような生存権を含んだ社会思想上の問題であると同時に、最近話題になる臓器等生殖移植、クローンに代表されるような生命操作など生命倫理・哲学に繋がる問題だと思ひます。(実

際この国にはほんの数十年前まで優生保護法なる法律が存在した訳ですが)妊婦さんにお聞きすると、最近では医療側から検査を進められるケースもあると聞きます。これら検査によつて全く障害胎児を意識していなかった多くの親たちを検査に引き込み、不安に陥れ、障害者を排除しようという優生思想の片棒を担ぐことにならないだろうか？と憤りを感じます。

われわれの社会や、障害のある方に関わる皆が出生前検査を望む妊婦の声に答えることが出来るのは、充量のカウンセリングと障害福祉の質・量の充実だと思ひます。倫理観を見失う妊婦家族の判断のみ問題視されるのでなく、そうならざるを得ない社会福祉施策の不安定さの責任ともいえます。

増え続ける妊娠中絶の数。この業界で飯を食っている己の問題として、障害福祉そのものが改めて問われているのだと、重く受けとめなければならぬと思ひます。

この国に、この家に生まれてきてよかった！産んでよかった！と思える社会、お互いの命の大切さ、希望、願い・今後も皆さんと一緒に考え続けたいです。

新任職員紹介

はじめまして。4月よりかしの木学園からふらっぶに異動してきました。柿崎由佳と申します。ふらっぶの仕事はまだ慣れないことが多くみなさんから色々なことを教えてもらいながら毎日頑張っています。

私が大事にしている言葉が「いい加減ではなくいいかげんに生きる」。頑張りすぎたりかといつて手を抜くことなく、どんなことでもバランスを大事に！という意味だと思っています。この言葉のように「ほどよく、いいかげんに」ふらっぶの仕事をやっていきたいと思います。これからどうぞよろしくお願いたします。

柿崎由佳
かきざきゆか

4月からふらっぶの常勤職員として働かせていただいております。喜多奈穂美と申します。最近までは登録ヘルパーとして、約2年間ふらっぶに関わっていました。

利用者さんからたくさん笑顔を見ていただき、毎日楽しく仕事をさせていただきます。利用者さんと関わりながら、少しずつ寄り添えていければと考えております。未熟な私のため、皆さんにご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、一杯頑張っていくますので、どうぞよろしくお願いたします。

喜多奈穂美
きたなほみ

初めまして。学生の頃から登録ヘルパーとして活動させて頂いていたので、ご存知の方もおられると思います。新たにふらっぶの一員となつた、高岡理恵といひます。

福祉に加え、心理の勉強もしていたので、双方の良い所を仕事に生かしていきたいと思っております。それぞれの利用者さんに合わせた支援のあり方を探しつつ、自分らしさを忘れないようにして、みなさんと関わっていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

高岡理恵
たかおかりえ

初めまして。4月からふらっぶで働く事になりました。丁春燁と申します。学生時代からふらっぶでは、登録ヘルパーとしてお世話になっていました。

皆さんの笑顔と一緒に出かけたり、電車に乗ったり、美味しいものを食べるのが大好きです！休みの日は、自転車に乗って京都を巡って、カフェでほっこり過ごしています。まだまだ経験も浅いですが、笑顔いっぱい、素敵な時間を過ごせるよう頑張りますので、よろしくお願いたします。

丁春燁
ちよんちゆな

ご報告

四月二十九日より篠原は産休をとらせていただくことになりました。

ふらっぶが立ち上がって7年、働き始めて7年。一緒にスタートし、一緒に育ってきた気分です。これまで元気に楽しく働くことができたのは、みなさんのお陰であると感謝の気持ちで一杯です。

初めての出産のため不安だらけですが、一年後には復帰できればと思っております。

しばらく長いお休みを頂戴しますが、また復帰後はよろしくお願いたします。

篠原 朱



その他の部分で、月毎に取り組んでいる仕事をピックアップしてみました。研修・意見交換などを主に記しました。

最近のふらっふの動き

■福祉避難所107カ所 市内施設と協定を締結

京都市は災害時に高齢者や障害者ら災害弱者が入る福祉避難所として高齢者福祉施設や障害者施設など市内107カ所を選定。施設と協定を締結した。

福祉避難所は福祉サービスを受け生活している人たちが災害発生時に避難する場所で、東日本大震災の時にも各地で設置された。災害時には事前に指定された施設から受け入れ可能人数の報告を受け、市が避難者を特定して受け入れを依頼。避難所では避難者に対する日常生活の支援や相談などに応じる。

京都市では高齢者福祉施設83カ所、身体障害者施設9カ所、知的障害者施設15カ所の計107カ所を事前指定。全ての行政区・支所ごとに2カ所以上を指定した。市は15年度までに避難所を200カ所まで広げる。

市は併せて、災害時に介護用品やベッド、車いすなどの提供を求める協定も介護用品販売業者らと結んだ。市によると、1人暮らしの高齢者で要介護認定を受けた「要援護者」として名簿に記載されているのは市内で約4万人にのぼるという。

引用：毎日新聞2012年5月8日

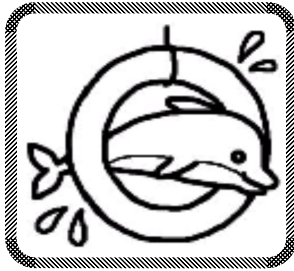
- ☆2月11日：ヘルパー連絡・勉強会
- ☆2月20日：ヘルパー連絡・勉強会
- ☆3月15日：右京居宅介護事業所意見交換会
- ☆3月17日：ヘルパー連絡・勉強会
- ☆3月19日：ヘルパー連絡・勉強会
- ☆4月2日：入社式・辞令式
- ☆4月12日：なづな学園創立記念日
- ☆4月13日：かしの木学園創立記念日
- ☆4月26日：法人全体職員会議

※この他にも、毎月法人全体の管理者会議や理事会などが定例で行われています。

■障害者総合支援法案

障害者総合支援法案の国会審議が17日に始まり、衆議院厚生労働委員会で18日、修正の上、民主・自民・公明各党の賛成で可決された。政府はこの法案を、障害者自立支援法に替わる新法と位置づけている。しかし、実態は国が自立支援法違憲訴訟団と基本合意していた自立支援法の「廃止」ではなく「一部改正」で、内容も「障害者らの提言が反映されていない」と批判が強い。こうした認識から共産・社民・みんな・新党きづな各党は反対した。ただ、今後の審議については国会情勢が不透明な状況だ。

引用：福祉新聞 2012年4月23日号



京都市水族館 オープン!

3月14日にオープンした京都市内初の大規模水族館。丹波の山々や芦生原生林（あしうげんせいりん）に降った雨がわき水になり、小川になり、やがて大きな川となって、そして海へ流れこみます。こうした源流から海にいたるつながりと、多くのいのちが共生する生態系を、そのまま館内に再現しました。京都の木々を配した館内には、国内最大級のスケールを誇るオオサンショウウオの展示コーナーをはじめ、魚眼レンズのある大水槽、公園の芝生や木々を望むイルカスタジアムなど楽しい展示が目白押しです。また、展示だけにとどまらず、遊びながら学ぶ「ふれあい」や飼育員による解説などを定期的実施されています。京都市水族館は、水に棲むいきものたちと、京都の自然や歴史を「遊び」ながら「学べる」水族館です。

京都市動物園 ~迫力満点の猛獣を間近で!~

京都市動物園にライオンやジャガーなどの新展示エリア「もうじゅうワールド」が完成し、4月28日にオープンしました。わずか15センチの距離に接近して見られる二重フェンスを導入し、トラが地上2.5メートルの高さを歩く空中通路も新設。2009年策定の新動物園構想に基づく全面改装の一環で、昨年9月に着工しました。猛獣舎の一新は約20年ぶりで、屋外展示場を含む床面積の合計は従来の1.5倍の508平方メートルに広がりました。

アムールトラのエリアは三つの屋外展示場を幅90センチ、長さ4~6メートルの空中通路3本で繋いでいます。トラには広範囲をうろうろ動き回る習性があり、木製台から跳び移り、金網状の通路を渡る行動が期待できます。運よく立ち会えれば、トラが頭上を歩く珍しい眺めを楽しめます。

関西初の飼育展示となる天然記念物のツシマヤマネコも「もうじゅうワールド」に仲間入りです。高い場所で安心して休憩するツシマヤマネコとジャガーの展示場は、手前のフェンスの高所部分が出張った構造で、くつろいで寝そべる姿を檻の真下から見られるそうです。

是非、新しい魅力の加わった動物園に、家族や友人と出かけてみませんか。



編集後記

今年度からふらっふ通信の編集長を務めることとなりました。何を記事にするか、読者の方が何を求めているのかを考えながら、編集していくとなかなか時間がかるもので：。普段から新聞などを見て、情報収集が必ずやだなど改めて感じました。新聞のレイアウトも工夫して、読者の皆さんにとって、読みやすいふらっふ通信を作っていただけらなと思っています。

新米編集長ですが、頑張っつぷ通信を作成していきますので、どうかよろしくお願いたします。

K